

インフルエンザ

2004.11.03

10月の中旬くらいから、各医療機関でインフルエンザワクチンの接種が始まりました。函館市内近郊では、9月にインフルエンザの第1報があり、10月の中旬に第2報がありました。幸い、大規模な流行にはつながってはいませんが、すでに大阪や東京ではインフルエンザによると思われる学級閉鎖がはじまりました。また、こどものインフルエンザ脳症の発症も既に報告されています。

大阪でのインフルエンザウイルスの解析を見てみますと、今年のワクチン株と類似したウイルスで昨年のワクチン株とは類似性がほとんどないとのことでしたので、少なくともA香港型ウイルスは昨年と違ったものが流行する可能性が大であろうと思われます。

インフルエンザは風邪の一種と考える方はまだまだ数多いと思いますが、そろそろ麻疹やみずぼうそうのように、人から人に移る感染症として心の中にきざむ必要があります。とくに、経営者の方は、インフルエンザと診断された職員が十分な休養と治療に専念できる環境を作ることをご検討ください。

インフルエンザの症状の特徴は、突然に発症する38度以上の高熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛などの症状の後に咳や鼻水といった症状が続き、約1週間の経過で回復するというものです。これに比べていわゆる普通感冒といわれる風邪症状は、咳や鼻水といった症状のあとから発熱などの症状が出てくるのが一般的です。

数年前から、鼻汁を使ってインフルエンザウイルスが存在しているかどうかを10分程度で判断できるようになりました。熱が出てからあまり早くに検査をしても、正しい結果が出ないのが難点ですが、まえの日から発熱しているという状況では、おおむね正しい判断が可能です。

この迅速検査が出来たおかげでインフルエンザの治療は格段に進歩しました。明らかな流行期に入れば、迅速検査なしで治療に入りますが、流行のはじめでは威力を発揮します。

今年のインフルエンザ予防キャンペーンは「栄養、睡眠、予防接種で三位一体。インフルエンザ予防」がスローガンだそうです。あなたに出来ることは何ですか？